

## 1. 基本理念

SPUS 有用安全考房は、『よく聞き・よく考え・よく話す』を基盤にする。

現場の知恵と経験を尊重し、安全性・生産性・経済性の三立をめざす『有用安全』を追求する。

暗黙知と形式知を統合し、使う人と作る人が安心できる安全文化の形成に貢献する。

## 2. 行動原則

### ● 現場知の重視

実機を見て・触れて・操作する体験を重視し、現場の違和感や気づきを活かす。

形式知との整合を図り、判断の根拠を明確にする。

### ● 協働と対話

使う人・作る人・支える人が対等に意見を交わせる場を整える。

中小企業の実務者が共に学べる関係を築く。

### ● 透明性と説明責任

安全判断の理由やリスク低減の根拠を分かりやすく示す。

活動内容を適切に開示して信頼性を確保する。

### ● 継続的改善

現場で得た知見を蓄積し、改善の循環をつくる。

国際規格や最新技術を踏まえ、常に学び続ける姿勢を保つ。

### ● 倫理と安全文化

安全を価値として捉え、健全な倫理観を育む。

違和感を共有しやすい風土をつくり、問題の早期発見につなげる。

## 3. 運営方針

### ● 実践に基づく判断

現場の観察と体験を重視し、机上の理論に偏らない意思決定を行う。

### ● 中立性の確保

特定の利害に左右されず、公正な立場で安全改善を支援する。

### ● リスクアセスメントの徹底

危険源同定・リスク評価・リスク低減を体系的に実施し、根拠を文書化して再現性を確保する。

## 4. 情報管理と知識共有

得られた情報を漏れなく蓄積しつつ、普遍的な知見を社会に還元し、安全文化の向上に寄与する。

## 5. 人材育成

体験型の学習を重視し、安全を『感じて判断できる』人材を育成する。

若手や実務者が継続的に学べる環境を整える。

## 6. コンプライアンス

関連法令・国際規格・業界基準を遵守し、運用状況を確認しながら、必要に応じて是正する。

## 7. 持続的発展

安全性・生産性・経済性の三立を追求し、企業の持続的成長と地域社会への貢献をめざす。